

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

大阪府地方独立行政法人市立吹田市民病院 市立吹田市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	400床以上～500床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	23	対象	ド透I 訓ガ	救臨輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	29,487	非該当	7：1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

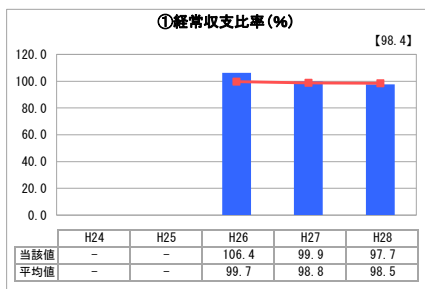
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輸…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
431	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	431
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
431	-	431

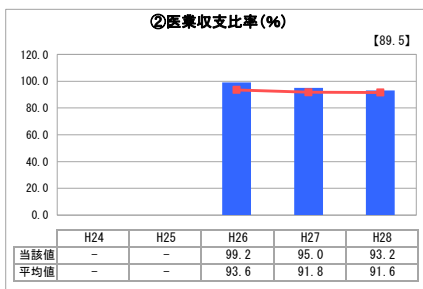
**グラフ凡例**

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

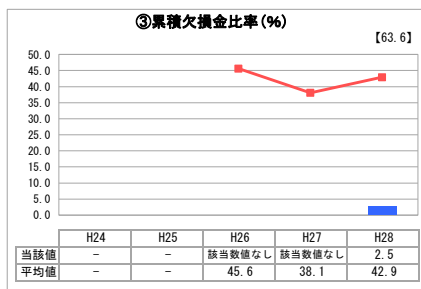
## 1. 経営の健全性・効率性



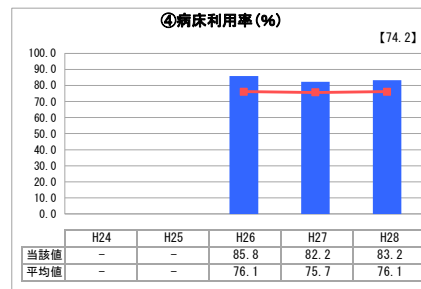
「経常損益」



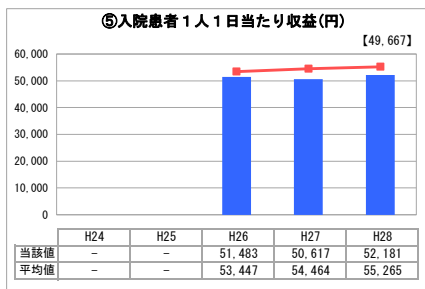
「医業損益」



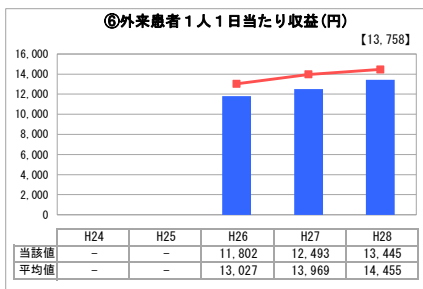
「累積欠損」



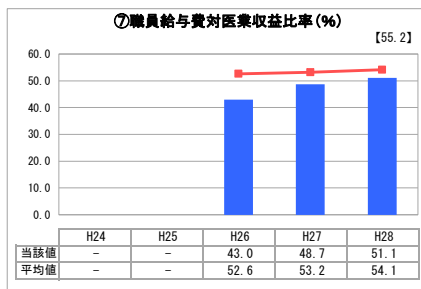
「施設の効率性」



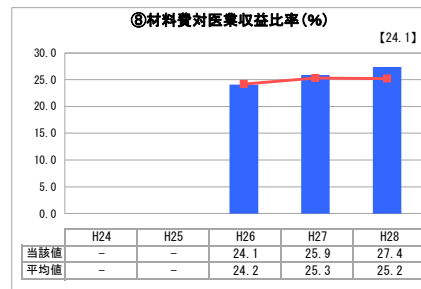
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

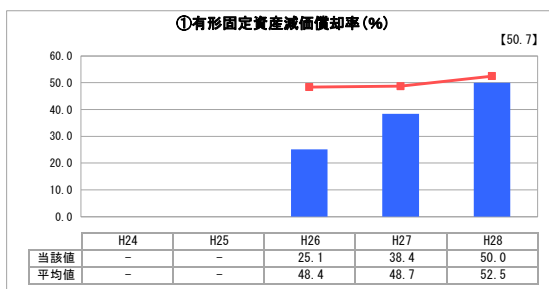


「費用の効率性①」

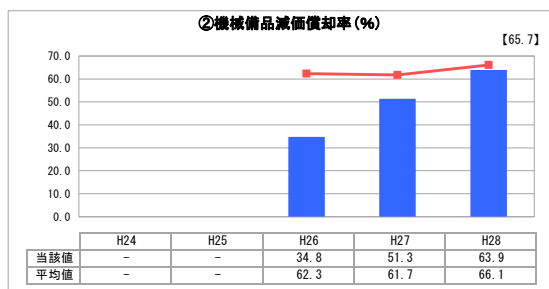


「費用の効率性②」

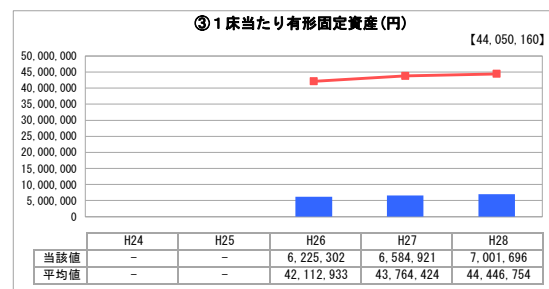
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「機械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

地方独立行政法人市立吹田市民病院は、平成26年4月1日に公共性・経済性を同時に満たす法人化へと形態を変更し、救急医療、小児医療・周産期医療、災害医療及び高度医療などの政策医療を中心に良質な医療の提供に努め、地域の中核病院として、地域に必要な医療を継続して提供する重要な役割を担っている。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率、②医業収支比率ともに、法人化初年度の平成26年度をピークに、以降は減少傾向にある。その要因は患者数減少により、給与等の費用増加に見合うほどの医業収益が得られなかったことによる。

⑤⑥診療単価については、平均値を下回っているものの、在院日数短縮等の取組みにより、入院、外来ともに増加傾向にある。

⑦給与費比率増加については、平成30年度の新病院移転等に向けた必要人員確保のために、平成26年度から年次毎に職員数が増加していることによる。

⑧材料費比率増加については、高額薬剤の使用増加と患者数減少の影響による。

### 2. 老朽化の状況について

③1床当たりの有形固定資産については、現病院は、建設後35年を経過し、機械設備等の経年劣化をはじめとする施設の老朽化が進んでいるが、平成30年12月に新病院への移転を控えていることもあり、機械設備等の更新を最低限に抑えていたことから、平均を下回っている。

## 全体総括

- ・収益面においての対策  
診療収入の増加には、患者数の確保と診療単価上昇が必要であり、それらの改善に向け、救急患者や紹介患者の受入れ体制強化に取り組んでいる。
- ・費用面においての対策  
給与費については、時間外勤務の縮減に取り組むとともに、新病院移転後、早期に、職員配置に見合う収益が確保できるように努める。材料費については、購入単価を抑えらるよう、ベンチマークや共同購入の導入について検討している。
- ・老朽化への対応  
防災拠点となる病院としての耐震性が不十分であり災害時に病院機能を維持することが困難であることから、新病院への移転を予定。（平成30年12月予定）

今後の経営状況について  
新病院移転後、機械備品の減価償却が終わるまでの平成36年度までの期間は経常収支比率、医業収支比率は厳しい状況が続くが、特に、救急搬送の受入れの強化や紹介患者の増加のための対策を推し進め、安定的な病院運営を維持するため、早期の黒字化を目指す。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。